

事業コード	H26-農-継-5		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	治山事業(地すべり防止事業)		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	補助事業(治山事業)		班 名	治山林道班 (tel) 018-860-1944
路線名等	砥沢		担当課長名	佐藤 龍司
箇所名	由利本荘市鳥海町上笹子字砥沢		担当者名	今川 順
総合計画との関連	政策コード	政策名		
	施策コード	施策名		
	指標コード	施策目標(指標)名		

## 1. 事業の概要

事業期間	H09 ~ H35 (27年)		総事業費	45.7億円	国庫補助率	50%	
事業規模	隧道工1,788m、集水井工8基、ボーリング暗渠工29,100m、溪間工4基、自動監視システム一式						
事業の立案に至る背景	平成8年4月の融雪期に、町道の亀裂・段差、斜面の押し出しによる擁壁や道路側溝の破損など地すべりによる被害が顕著となり、下流域の保全対象への被害を未然に防止するため、平成9年度より地すべり防止工事に着手した。 その後の機構調査により、既ブロックを包括する斜面長約1.0km、幅約1.0km、深さ約160mの大規模な地すべりであることが判明したことから、全体計画を見直して地すべり防止工事を実施している。						
事業目的	【主たる目的】 地すべりの誘因となる地下水を隧道工、集水井工からのボーリング暗渠工等により排除し、地すべり災害の防止を図る。 【主な保全対象】 人家440戸 道路1,100m 農地300ha						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,900,000	4,570,000	2,670,000			
	経費内訳	工事費	1,700,000	3,350,000	1,650,000		
		用補費	0	0	0		
		その他	200,000	1,220,000	1,020,000		
	財源内訳	国庫補助	950,000	2,285,000	1,335,000		
		県 債	855,000	2,056,500	1,201,500		
その他		0	0	0			
一般財源	95,000	228,500	133,500				
事業内容	隧道工900m 集水井工8基 ボーリング暗渠工16,400m	隧道工1,788m 集水井工8基 ボーリング暗渠工29,100m	隧道工888m増 ボーリング暗渠工12,700m増	地すべりブロックの拡大に伴う対策工法の増工			
事業の進捗状況	平成25年度末投資事業費 2,602百万円 (進捗率56.9%) 隧道工838m 集水井工8基 ボーリング暗渠工18,109m 溪間工4基 自動監視システム一式						
事業推進上の課題	隧道工、集水井工等の実施により、地すべりの原因である地下水が排除され、滑動量の沈静化が確認されているが、いまだ滑動の停止には至っていない。今後精度の高い地下水浸透流解析等を行い、より効果的、効率的な工種・工法を検討していく必要がある。						
関連する計画等	「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」の暮らしを支える5つの基本政策「県土の保全と防災力強化」の中に「治山対策等による生命財産を守る安全な地域づくり」が位置付けられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	当地区下流域の笹子地域の住民及び由利本荘市からは、工事の早期・確実な実施を強く要望されており、情勢の特段の変化は見られない。 当地区は、大規模な地すべりブロックであることに加え、効果判定調査を行いながらの対策工事であることから事業期間を要している。						
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	保安林の累計整備面積 (ha)					
	指 標 式	整備面積累計					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	44,556 ha		データ等の出典	森林整備課 調べ		
	実績値 b	38,668 ha					
達成率 b/a	86.8 %		把握の時期	平成26年3月			

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容 ( 特記事項 )	評価点
必要性	大規模な地すべりが発生した場合は、ブロック末端に位置する一級河川丁川が閉塞し、下流域に甚大な被害を及ぼす恐れがある。 このため、地域住民は地すべりの早期安定化を望んでおり、地すべり防止施設へ要望は高い。	5点
緊急性	対策工の着手により、最大で年間30cm以上あった移動量が約10cm程度と減少しているが、現在も地すべり滑動は活発であり、早急な地すべり対策により安定化を図る必要がある。	20点
有効性	当事業の実施により、地すべりブロックの滑動量が大幅に減少しており、当事業の有効性が認められる。	16点
効率性	事業の費用対効果は3.45であり、効率性は高い。 ・総事業費 5,223百万円 ・総便益 18,041百万円	20点
熟度	地元住民及び由利本荘市との合意形成は図られている。 また、地すべり規模、想定される災害について、市・消防・地域住民等関係者に説明会を開催している。 その他、自動監視システムを導入し、現地に異常が確認された場合には、各関係者に自動通報されることになっている。	23点
判定	ランク ( ● I ○ II ○ III ) 各観点において評価点が高く、住民の安全・安心な暮らしを実現する上でも優先度の高い事業箇所であり、継続して実施すべきと考える。	84点
総合評価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業実施箇所として優先度は高く、継続して実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 ( 対応方針 )

--

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 地すべり防止事業

事業コード(H26-農-継-5)  
箇所名 (由利本荘市鳥海町上笹子字砥沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	県民のニーズ	該当施策の優先課題としての支持率が非常に高い 該当施策の優先課題としての支持率が非常に高い 該当施策の優先課題としての支持率があまり高くはない	5 3 1	5		
	計		5	5		
	緊急性	災害発生時の危険度				
緊急性	人命への影響	災害の発生により人命に危険がある 災害の発生による人命への影響はほとんど無い	5 1	5		
	地すべり兆候	全体的に変状が認められる 部分的に変状が認められる 緊急ではないが将来的に必要	10 5 1	10		
	林地・公共施設への影響	林地・公共施設への影響が大 林地・公共施設への影響が懸念 林地・公共施設への影響が小	5 3 1	5		
	計		20	20		
	有効性	当該計画の具体的な効果				
		目標安全率の達成率	目標の100%以上 90%~100%未満 90%未満	10 5 1	1	
地下水位低下状況		100%以上 80%~100%未満 80%未満	10 5 1	5		
上位計画との貢献度						
ふるさと秋田元気創造プランでの位置付		戦略を支える取組として貢献度が高い 戦略を支える取組に間接的に貢献する 戦略を支える取組への貢献度は低い事業である	10 5 1	10		
計			30	16		
効率性	事業の投資効果					
	費用対効果	B/C=2.0以上 B/C=1.0以上2.0未満 B/C=1.0未満	10 5 0	10		
	コスト削減計画	具体的に検討または実施している 検討を予定している 検討していない	10 5 0	10		
	計		20	20		
熱度	事業実施体制					
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 要件の同意を得ていない、または、調整中	5 3 1	5		
	進捗状況					
	前年度までの進捗比	計画より進捗している 概ね計画どおりである 計画より遅れている	5 3 1	3		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが、当面進捗に影響は無い 課題は解決の見込みが無く、事業の停滞が予想される	5 3 1	5		
	他関係機関との協議調整					
	基本合意の有無	協議・調整済みで事業推進に影響は無い 協議・調整中であるが事業推進に影響は無い 協議・調整中で事業推進に影響する	5 3 0	5		
	環境との調和性の配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮について検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	計		25	23		
合計			100	84		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		